

## 1・12・演説会 応援原稿 大本芳子

改めて新年あけましておめでとうございます。今日はお忙しい中おいでいただきましてありがとうございました。心から御礼申し上げます。さて私は、今期で引退いたします。この私の議席をぜひ住より善志さんに引き継ぐべく猛ダッシュしているところです。汗と涙で勝ち取った市民の暮らしを守るこの議席必ず住よりさんにバトンタッチさせてください。そこまでが私の務めと強く思っています。

先日、地元玉島テレビが「引退議員に聞く」という特別番組を組んでくださいました。その中で34年の議員活動の中で1番印象に残っていることは？と尋ねられ私は即座に「チボリの是非を問う市長選挙！」と答えました。総額県費・市費700億円かける外国のまねチボリはいらない。チボリは倉敷市の文化と相いれないチボリより福祉・教育予算の拡充をと元助役の室山貴義さんを擁立し頑張ったあの選挙は、全国からも注目されました。当時市議48人中、共産党市議団の4人とプラス3議員で41：7で市長選挙を戦い、あと1歩とというところまで肉薄しました。結果的に投票日のあの出口調査にやられました。室山優勢との調査結果が敵の渡辺陣営に流されバスを使っの川鉄団地の投票総行動が行われ逆転されまし

た。悔しい悔しい選挙でした。敗れはしましたが「チボリより福祉の充実を！教育の充実を」と頑張った共産党の主張が市政を大きくゆすりました。今もその情勢です。「鉄道高架事業より、くらし福祉教育の充実を、防災対策を！」もっともっと声を大きくして訴えなくてはなりません。その運動が弱いと思います。

また、かつての市会議員選挙で共産党の4候補そろって4000票台を確保し上位・中位当選をした選挙があります。その時の争点は「大企業にはっきりものを言って市民の暮らしを守ります」でした。

みなさん思い起こしてみてください。昨年の海底トンネル事故はコスト削減で必要な事前調査・検査を怠った結果、5人の労働者の命が奪われました。またコンビナート企業のとりわけJX日鋼日石は、法で定められた検査の虚偽報告や未実施にもかかわらずしたように報告したり、違法・無法それを指摘し現地調査・国県への要請活動をわが市議団は精力的に行いました。また3・11地震の際の各コンビナートの被害状況と今後の対策等を丹念に調査し、水島コンビナート29企業の震災対策の赤裸々な調査を市消防局に迫り、それを実現し、いまそのデーターを基に各種の対策が取られつつあ

ります。私がそれらの報告を私のブログに書き綴りました。水島コンビナート企業の労働者からたくさんのメールが寄せられ「企業は労働者の代わりはいくらでもいると、我々をボロッ切れのように思っている。企業の横暴を質してほしい」と多くの声が寄せられました。「企業にとって労働者の代えはいくらでもいるけれど我々にとって父親・夫息子は一人だけだ、我々をまもってください」切々たる声をいただきました。

今日の新聞に衆議院議員に返り咲いた橋本岳の抱負がのっています。水島の企業の競争力を強めるとか、そのための規制緩和を加速させる、ととんでもないことを言っています。これ以上規制緩和をされると安全はますます担保できなくなります。その1例がJXの虚偽報告などを生む下地を生んだのです。大企業にはっきりものをいって安全・暮らしを守る、これができるのは企業から1円の献金ももらわない共産党だけです。私の34年の議員活動の原点はまさにここにありました。

私は本会議質問連続139回倉敷市議会の1つの記録を作りましたが、本会議では時間や質問回数で制約を受けます。徹底審査ができるのは各委員会です。倉敷市議会には6つの委員会がありますが、

4人しか議員がいなかったので4つの委員会しか在籍できず、あと2つは空席です。私たちの悲願は6議席なのです。4はそのためのプロセスです。4とればいいわという小さな志でなく6とる戦いの1つと位置づけ、大志を持ってこの選挙を戦おうではありませんか。それが参議院選挙の勝利につながります。大志と覇気をもってこの選挙戦い抜きましょう。私もその先頭に立ちます。共産党議員団が果たしてきた役割の一端をご紹介します。どんなことがあっても欠かせない四議席です。住より善志さん必ず勝利させてください。選挙は守ってはだめです。草原の鹿を追うごとく攻めて攻めて攻めまくるこれが勝利へのカギです。大志と覇気をもって頑張りましょう。